

# How To Use “Christina Rossetti”

## ロセッティ使用方法・ヨットレースマニュアル

第6稿 全10ページ 2006/02/18 24:00 現在

Dohman/Hoshino/Hachiya

セイリングクルーザー「クリスティナ・ロセッティ」の操船を楽しむため、備品使用方法・セイリングコントロール・レースでの走り方・帆走手法を、ヨット初心者にも充分わかりやすいように順を追ってまとめ上げています。レース参戦を基本に解説していますが、クルージング時も参考になります。ぜひ一度、ロセッティ乗船時に、本書を携帯して、確認してみてください。

### 基本ポジション

スキッパー（舵・ヘルム）	グラインダー（ウインチやハリヤード担当：左右2名）
パウマン（船首でのデッキ作業：2名）	ジブトリマー（ジブセイルのコントロール担当：左右2名）
マストマン（マスト回り担当）	スピントリマー（ジェネカーのコントロール担当）
メイントリマー（メインセイル担当）	アフターガード（コクピットでの操船指示等、他：数名）
タクティクス（戦略/コース考察）	および ゲスト（どうぞ優雅にゆったりお過ごし下さい）

### 用語解説

#### 船体・運行・方向

ポートタック / 向かって左側から風を受けて走る	交差時：優先権無し（セイルは右に出ている）
スタボータック / 向かって右側から風をうけて走る	交差時：優先権有り（セイルは左に出ている）
ポート / 左舷（乗り物はすべて左舷が玄関）	スタボー（スターボード） / 右舷（星が眺められる？）
上る・パウアップ / 風上に向かって切り上がる動作	下る・おりる・パウダウン / 風下に船首を向ける動作
ボンツーン / 係留中の浮き桟橋	マスト / 主帆を上げる縦柱
ハル / 船体のボディー側面外板	ブーム / 主帆を下側から支える横柱
パウ（あるいはフォア） / 船体の前方	スプレッダー / マスト上部2箇所横枝
スタン（あるいはアフト） / 船体の後方	フォアステイ / 前端からマスト上部を支えるライン
キャビン / 船内の3部屋（パウ・メイン・スタ）	バックステイ / 後橋からマスト頂点を支えるライン
コクピット / 運転席部分	バルピット / 最前部ステンレスパイプ製の柵
フェンダー / 船体防護用クッションバンパー	スイミングハッチ / 最後尾のトランクリッド
ビルジ / 船底に溜まる水	ラット / ハンドル・舵・舵凧
ペDESTAL / ハンドル支柱	チャートテーブル / メインキャビンの机

#### ロープ・ウインチ・セイル

メインセイル / 主帆マストセイル	ジブセイル（ジェノア） / 前方セイル
ジェネカー / 非対称スピ	セイルのピーク / 帆の最上部頂点
セイルのタック / 帆の前方下端	セイルのクリュー / 帆の後ろ端
シート / 操船用の各種ロープ	ハリヤードウインチ / 前方左右の小型ウインチ
ハリヤード / 上げ下げのロープ	プライマリーウインチ / ジブ用の大型ウインチ
係留索 / 船体固定ゴム付きロープ	セカンダリーウインチ / メイン用中型ウインチ
雑索 / 短い予備ロープ	スピンシート / ジェネカー操作用左右ロープ
ファラー / ジブ巻込み収納機	フォアガイ / ジェネカーのタック部を支えるロープ
セイルタイ / メインセイルをたたんでしばるベルト	リーフロープ / メインセイルを縮小するためのロープ
アウトホール / メインセイルを後に引きこむロープ	カニンガム / メインセイルを下に引き込むロープ

## 出航準備

- ・ コンパニオンウェイ（出入り口）開錠し、アクリル製ゲートカバーをコクピット右ロッカー奥に入れ込む
- ・ 左アフトキャビン床の主電源3スイッチオン（黒・赤・赤）
- ・ チャートテーブル横壁面のスイッチパネル（3列の右列）各メーター類電源ON
- ・ メインキャビン前方中央、床のピットにビルジが溜まってたら、同スイッチパネル中央列、上部より2番目、メインビルジポンプスイッチで排水し、終了すればスイッチを切る
- ・ パウ（フロント）キャビン床の羽目板をめくり、船底スルハルの前方ソケットに水車のついたスピードセンサーをすばやくセット。しっかりセットしていなければ抜け落ちて船は沈没します。要、確認！
- ・ コクピット内5ヶのプラ計器カバーは必ずして右コクピットロッカーへ
- ・ 不要の重量物はボンツーンに排出し、不必要ならば水タンクをキッチンの蛇口からすべて排水
- ・ パウキャビンの電波時計にて時刻あわせ
- ・ チャートテーブル右の黒バインダー・ログブックに日付・天候・乗員氏名と出航時間記入
- ・ すべての手荷物・私物はアフトキャビンへ移動、メインキャビンには動きまわる物がないように！
- ・ すべての窓・扉を出航前には必ず閉める
- ・ 2箇所のトイレ便器内の水を全てレバーで排水
- ・ メインキャビン中央のランプスタンドには絶対手を触れない！
- ・ スタン、スイミングハッチを開いて外部陸電ケーブルを取り外し、ボンツーンに濡れないよう放置
- ・ 充電完了のマリンVHFをラットペDESTALにセット
- ・ 船底が汚れている場合はハルクリーナーでクリーニング
- ・ 艀装、スピンハリヤード、スピンシート等、セット及びシーティングチェック。
- ・ メインセイルブームエンドのブームトッピングシート（赤）を最後尾バックステイに移動し固定する
- ・ メインセイルカバーをはずしブームエンドに留めてあるブルーのメインハリヤード（ダブルシート）をマストステップに登ってメインセイルのピークに、上部までよじれがないことを確認して取り付ける
- ・ 燃料残量とエンジンクラッチレバーのニュートラルを確認後、エンジン始動

## 出航

- ・ フェンダーはすべて、スタン(リア)右ロッカーへ
- ・ ショックアブソーバーつき係留索ロープはボンツーンに残さず、必ず船側に回収しコクピットロッカーへ
- ・ レースの場合はスタート40分前までに、レース海面まで機走
- ・ ライフベスト全員装着、もしくはライフスリングをスタンパルピットに取り付ける
- ・ 移動中はクルーポジション・レースコース・レグ・時計時刻合わせ等のブリーフィングを行う

**出航後、いよいよセイルを揚げる。まず、メインセイル、次にジブセイル、常に2枚張りでレースに備える。メインセイル掲揚（エンジンは停止厳禁）**

### 1. 準備

マストマン（パウマン）はマスト側面、グラインダーはコクピット右のハリヤードウインチにつき、赤いメインハリヤードをセット確認、残りはセイルタイ解除と、ブームのメインリーフロープ引き出し準備。

### 2. 掲揚

1) 船首をスキッパーが風位に向けた後「メイン展開！」の号令と同時にマストマンとグラインダーがメインハリヤードを引く。残りのクルーは、たたまれたセイルを留めてあるセイルタイをマスト側(前)からメインセイル展開にしたがってはずしながらセイルアップ。

コクピット最後尾のクルーはブームエンドのリーフロープを充分に引き出してメインアップのサポートする。

2) 最後はハリヤードウインチにてメインハリヤードのマーク位置（黒ライン）まで引きこむと完了。

3) セイルタイはコクピット右ロッカーへ収納

4) グラインダーはストッパー側でリーフロープを適当に張った後、固定

5) グラインダーはブームバングシートもある程度引いて固定

6) メイントリマーはセカンダリーウインチにてトリム開始

### (ポイント)

メインセイルを束ねているセイルタイ一度にすべてを解かず、前方からはずしながら掲揚すればセイルがブームからだらしなく垂れ下がらずにスムーズに上がる。

## ジブセイル展開

### 1. 準備

ファーラーシートのもつれ、ジブシート開放側とトリム側のもつれ、引っかかり、踏んでないかチェック。

### 2. 展開

- 1) グライnderはヘルムの「ジブ展開！」の号令と同時にファーラーCUT。
- 2) 風下ジブトリマーが風下ジブシートを引くと自動的にジブセイルが展開する
- 3) 風上ジブトリマーはスムーズにシートを送り出す  
送り出し時、キंकに注意！シートサポート。
- 4) 風下グライnderがハンドルでサポートし、トリム開始。  
風上側は三重巻き（「の」の字）にして次のタックに備えシート整理。

### （ポイント）

ファーラーロープやジブシートは足元で丸めずに出来るだけ直線に近くしておく。  
伸ばしておくときんくしにくくなるので、干渉しなければ船内に垂らすと良い。  
それでも手によるサポートは大事！（グラブが必須、摩擦には充分注意！）  
スピンハリヤード等がファーラーに巻き込まないように注意。

### レーススタート 10分前 5分前

バウマンはパルピット前方に身をあずけて、スタートラインと上マークのおおよその位置を、確実に認識しておく。一度スタートライン上を流して本部艇とスタートブイを結ぶ景色と上マークを記憶すればよい。  
藻の多い季節や雨の後など浮遊物の多い季節はゴミかみ解放のためのバックドライブも行っておく。

### スタート信号

スタートライン左端を示すアウターブイと、右側に停泊したボート(本部艇)を結ぶ線がスタートラインで、めざす第一目標のブイ(通常は風上マーク)は、1 - 3マイル先に打たれ、その方位と距離は本部艇とブイうち艇間の無線を傍聴するか、本部艇の側面掲示パネルで表示されているので必ず、確認しておく。

### スタート位置を示す本部艇からの合図は警笛4回と旗の上げ下ろし

スタート5分前：クラブ旗 揚がる / エンジン停止、一度クラッチを後進に入れてペラを必ず閉じる。

スタート4分前：P旗 揚がる

スタート1分前：P旗 降りる

スタート : クラブ旗 降りる / リコール艇あれば1回警笛、ジェネラルリコール(やり直し)は連鳴

### レーススタート時

バウマンはスタートラインまでのおおよその距離を後部に向かって叫ぶ  
コクピットクルー(通常グライnder)は、スタートまでの時間を秒単位で声高に読み上げる  
(時計のトラブルは意外と多いので時計の取れる人は極力、5分前信号に合わせて時間をとる。)

## レース基本レグ(A:下マークスタートのぼり B:上マークからジェネカーでくだり C:下でふたたびのぼり)

### 【A】第1レグのぼり

レース開始はほとんどが風に向かう上り航行。メインとジブセイルでスタート。上マークへ。

#### クローズホールド

バックステイは引き気味、万一メインセイルがたるんでいたらアウトホールとカニンガムも引いておく。

クルーは風強弱に合わせてバランスの良い位置に体重移動する。

位置についてはヘルムを感じやすいメイントリマーやヘルムスマンが積極的に指示をだしてあげる。

あなたの体重が、確実にチームのスピードに貢献する！！

#### タック

風に対して上っていく操船。風位に対し左右約45度でジグザグに上る。スピードは落ちる動作。

- 1) 「タック準備」の号令で、シートを引く側(グライnderもポジションで待機)、開放側の各シートの巻き方(「の」の字)もつれ、引っかかり(バウ側まで全て)を全てチェック。  
問題無しなら「タックOK」とスキッパーや指示した人間に向けて意思伝達。

メイントリマーは必要があればトラベラーを操作する。

- 2)「タック！」の号令と同時に、船を回頭。風位に立ち裏風が入った瞬間に左右シートを「開放」「引く」する。  
グラインダーは巻き取りをサポート。  
クルーは艇が平らになった瞬間（またはスキッパーの号令にあわせて）すばやく反対舷のタック前にいた位置に移動する。
- 3) タック終了
- 4) タック動作によりスピードが落ちているので、回頭直後は落として走りスピードが付くまで多少開き気味（裏風少々OK）まで引き、スピードに乗るにつれ更に、ジブセイルとテルテールを見ながら引き込み具合を調整。  
メイントラベラーも艇がスピードに乗るまでは多少、風下側に位置させる。必要ならばメインシートも少し緩める。  
その後は基本的にスキッパーによるラダー操作にあわせ、セイルトリムを続ける。  
スキッパー、トリマーのコミュニケーションが特に重要！

(ポイント)

ジブトリマーの引き側は、風位に立った瞬間に早めにシートを引き始める。

引けるようになった時に最大限引き込みが出来るよう、肩と両腕の大きなスライドで後ろまで引き込む。

風位近くで引き込んでおくとうインチの必要がないほど引き込める。

バウマンはジブ引き込み時、セイルのスカートがライフラインにひっかかった場合即座に内部に収める

ジブトリマーはむやみにジブシートを引きすぎてセイルを炒めないよう、最大でも上部のスプレッダー先端からジブセイルのショルダーまでは10cm程度必ずあけておく。

ジブシート開放側ジブトリマーは、タック前にウインチハンドルを取り去り、プライマリーウインチ頭部のセルフテリングストッパーからシートをはずして2重巻以下にしておく。船の回頭を見て、風位に立つまでウインチの巻かれてあるシートに左の手のひらを添えて待機し維持、裏風が入った瞬間にシートを持ち上げながら反時計回りに回すように上部へ引き上げて、すべての巻きを開放するとキंकは発生しない。

タックはロスを最小限にする為にスピードを付けてから行う為、回頭しない内に開放してしまうと、失速してしまいロスの原因となる。

準備OK!は必ずスキッパーや指示した人の方を向いて伝える。(風などで聞こえにくい為。)

強風等でメインを逃がして走行しているときのタックは、メイントリマー以外のクルーが必ずメイントラベラーに張り着き、回頭時にブロック移動のトラベラー操作を行う。

回頭時ならメインシートブロックがトラベラー上を自動的に動くので操作しやすい。

## ジェネカー展開準備

**普通ブイ回りレースは、反時計回り(アンクロック)の為ジェネカーは左に(スタボー)出すと仮定して進める。**

### 1. セッティング準備

バウマンは、上マークが必ずアンクロック(反時計回り)なので、のぼり最後のタックはスタボー(左側にジブが開いている走行)を想定してジェネカーを余裕を持って事前にセットする。

#### のぼりポートタック時(右にジブに、ジェネカーをセットする場合(簡単))

- ・ 大外まわししたスピンシート2本を左側からジェネカーのクリュー部に接続
- ・ フォアガイ(ダウンシート)をジェネカーのタック部にそのまま接続
- ・ スピハリをジェネカーのピーク部にそのまま接続
- ・ その後、一度スタボータックを経てマークを回頭しジェネカーを左に上げることとなる。

#### のぼりスタボータック時(左にジブに、ジェネカーをセットする場合(複雑))

ジェネカーのスピンシート2本・スピハリ・フォアガイの計4本のシートすべてをジブの左外側にまわし、スカート下とデッキの間を経て、ジェネカー各部にセットする。

スタボータックのままマークを回頭しジェネカーを同じく左にあげることとなる。

どちらのセットも風上側で安全確実に作業できるタックのときに余裕をもっておこなう。また、確実な作業は大事だが、安全、ピッチング、を考慮してバウ先での作業時間はなるべく短くするように心がける。

## 【B】第二レグくだり(上マークから下マークへアंकロ(反時計)回り。風を背後から受ける航行)

### 【上マーク回りきるまでジブ走行 回頭後にジブ・メイン出し ソックスUP ジェネカー展開 ジブ格納】

#### ランニング

追っ手走行：風を後ろ気味に受けて走る。方向が安定しにくいので注意が必要

バックステイはゆるめ気味、メインセイルははらみ安いようアウトホールとカニンガムは出し気味。

#### ジャイブ

風下に回ること、必ず真後ろから風を受ける瞬間があるので、ブームが頭上で大きく動く。危険なので注意！

#### 上マーク回航

1. ジェネカー取り付け完了をスキッパーが確認
2. マーク回航後、ジブを出してジェネカーソックスをスピハリで掲揚
  - 1) マークを回ってランニング状態で充分メイン・ジブともに出しきった後、落ち着いてからスピハリヤード・両スピシード・フォアガイの接続を再確認し、ソックス掲揚準備OKとコクピットに声がけする。
  - 2) バウマンのOK指示とスキッパーの号令でマストマンとグラインダーの2名でスピハリヤードを引く。
  - 3) バウマンは引き出されていくソックスに手を添えて援助し、樹脂ソーター部がロッカーから出たら、ソーターに付属している2本のブルーシートを、ソーターとともにジブスカートにくぐらせて外側にすべて前側に引き抜き、パルピット最前端で、ブルーシートの引き上げ側シートを確認(印をつけておく)後、ジェネカー展開の準備に着く。
  - 4) ジブトリマーは左側スピシードを引き込んでたわみもとり左プライマリーウインチを経てスピントリマーに手渡す。
  - 5) 右側スピシードは垂れて落水しないよう、必ず右ジブトリマーにあずけ絶対注意を怠らない。
3. ジェネカー展開！
  - 1) スキッパーの号令で、バウマンがソックスの一方のブルーシートを引きはじめ、ソーターを上げていく。スピントリマーはこれに合わせてスピシードを引いていき、ジブ裏の風を受けとれるようにジェネカーをはらませつづける。  
ソーターの上がりが遅いときはトリマーは無理にスピシードを引かない。(ソックスがスターン方向に引っ張られ、バウからスムーズにソックスが上がらなくなる。)
  - 2) バウマンはソックスが上がった位置でブルーシートを束ね、デッキに垂れている緩いスピシード(アフターガイ)が大外になるよう内側からバウのクリートにまとめて結び固定する。
  - 3) スピシードでトリマーがトリム開始。遊んでいる側のスピシード(アフターガイ)がいろんな所に引っかからないよう送り出し時はサポートが必要。ジブは展開したままなのでこのときはセイル3枚張りとなる。

#### (ポイント)

マーク回航後のランニングはジブ左側面にジェネカーが展開できるよう、ガイ・ハリヤード・シートは、大外回しで左ジブのスカート下とデッキの間からとってあること。ダブルチェック！

ソックスソーター部を上げ下げするブルーシートはエンドレスのため、セイルの各ピークを誤って通っていないか、また絡んでいないかを事前に確認しておく。

ジェネカーハリヤードのスピハリ引きはウインチ不要(前後二人いれば)。最後、上がりきったことを確認してスピハリをロック。(スピハリに上げきった位置の黒マークあり)

ソックスUP用のブルーシートをバウ最前端で引くときは、必ず追っ手(ランニング)走行を心がける。

操作していない側のスピシード(アフターガイ)は、ジェネカーの出し入れでシートに余分が出るので落水しないよう無駄なシートは常に引き込んでおく。が、むやみに引きすぎると、スピネーカーの形がつぶれて風を受けられなくなるので注意。シートが海面に落ちると船底に巻き付く可能性がある。絡んだシートをはずそうと、ブロックから一端をはずすと、更に水中でスクリュウに絡まり重大事故にもなりかねない。

ベアと同時にジブシートを出したくなるが、ジェネカーホイスト中はあまりシートを出さない。(ソックスが干渉し、ホイストしにくくなる。特にセールが濡れているとき。)

スピンははらみにくい時はバウマンがタックを下に引き、風がエントリーしやすいようにラフをピンと張ってやる。(ジェノアと同じような状態。)

## ジブセイル収納（スピン展開確認直後）

すべてのジェネカー関連シートが、ジブセイルにまったく干渉していないことを、マスト上部まですべて確認してからファーラー巻き取りOKの指示を伝え、デッキとコクピットでタイミングを合わせ巻き始める。ファール中もパウマンはジブセイル上部を確認しながら、ジェネカーのブルーシートやスピンハリヤードを巻きこまないよう充分注意が必要。

### 1. 準備

グラインダーはファーラー引き込み準備。パウマンは、パウ側でファーラーシートを引き補助準備。

ジブシート左右の開放&軽めのテンションかけながら巻く。

ジブを巻き取る際、足下のジブタック部ファーラー回転時の根元にシートが絡まないよう注意する。

### 2. 収納

1) 左右ジブシートをウィンチから開放。両ジブトリマー左右のシートを軽くテンションかける。

2) グラインダーはファーラーを引き込んでジブセイルを巻く。パウマンはシート引きのサポート。

3) ジブトリマーは、回転に合わせて綺麗に巻き取られるよう注意する。

最後まで巻き込んだらファーラーの固定をチェック。

4) スピントリマーがスピンシートを引き込む際、強風では猛烈に力がかかる為、ウィンチに2周程度スピンシートを巻き込み、グラインダーが付いてウィンチハンドルで、トリムのサポートをする。

### (ポイント)

ジブシートは最後に強くテンションかけて、ジブシートがたるまないようにしてから三重巻きしておくか、テンションをかけてクリートに仮止めしておく。

たるんだままだと、パウマンが作業中からだを預けた場合危険。

ジブ未使用の場合、スピンシートトリム中にフォアガイの上下（右側ウィンチ）やスピハリ・メンハリ（左側ウィンチ）等でプライマリーウィンチを使用する場合がありますので、ジブシートはクリート等に仮に巻きつけておく事もある。常にどれかひとつ空きウィンチを作っておく。

特にフォアガイの上下は強風時ウィンチハンドルを必要とするので、スピンシートは、常にポートサイド（左）のウィンチを使ってトリムしてもらった方がよい。

## ジェネカーのトリム

メインセイルはむやみに出しすぎず、ジェネカーに風を渡すよう心がける。

常時スピントリマーの「クランク」の声でグラインダーはウィンチを巻き、ジブトリマーはサポート。

コクピットではフォアガイのコントロールのため、別のグラインダーが常時張り付いておく。

真正面のフォアステイ風上側にまで、ジェネカーのショルダーが膨れ出てくるようスピンシートを出し続け、つぶれ始めたらシートを引く動作を繰り返す。

スキッパーはウィンデッキよりも体感や景色でランニングヘルムを安定させ、むやみに転舵しない。

風がランニングに近くなるほどフォアガイを出し、スピンシートをゆるめ、タックとクリューを前方に飛ばしてジェネカーを船首センターにはらませる。

**ジェネカーのジャイブ**（追い風に乗る、風下に向かう時に行う方向転換。スピードは落ちにくい。）

ロセッティではスピンシートは常に大外周りでセットしているので、ジャイブ時はジェネカーのクリュー（2本のスピンシートを取り付けている部分）が船首バルピットの前に出て行き、真追っ手になってシバーするまで両シートを充分に出してやるのが大切。

パウマンがバルピット前方でセイルをうまくサポートしながら、真追っ手を過ぎてクリューが正面から風下側にシバーしはじめたら、コクピットでは風下スピンシートを大胆にすばやく大きく引き込む。

この動作は、別のパウマンがデッキ中ほどでスピンシートを持って、パウからコクピットまで走りこむほうが早い事もあり、ウィンチにスピンシートをかけるのはその後でもよい。

当然この時、風上側のスピンシートはすざましいスピードで出て行くのでジブトリマーは、リリースに注意し、常に海面にシート浸からないよう心がける。

### 1. 準備（「ジャイブ準備！」の声と同時に）

1) グラインダーはジェネカーの下部、フォアガイをバルピットぎりぎりまで引き込みはじめる。

2) パウマンはシートやジェネカーがバルピットに干渉しないようサポートの準備

3) 現アフターガイ（次のスピンシート）をジブトリマーがにぎり、中ほどを別のパウマンがつかむ。

- 4) バウからスターン（ブロック含む）まで両スピンシートが絡んでないかチェック。
- 5) メインセイルトリマーはメインセイルを引き始める。
- 6) 現スピンシート（次のアフターガイ）を、トリマーが開放するので綺麗に流れるようサポート。

## 2. ジャイブ（「ジャイブ！」の声とセイルのシバー状態をみて）

- 1) ジブトリマーは、現スピンシート（次のアフターガイ）は、トリマーが手を離すので、ウィンチから2重巻きを解いて、綺麗に流れるようにサポート。
- 2) バウマンは風下スピンシートをたずさえて、コクピットに走りこむ  
余分なタルミは即巻き取り、その後スピンの潰れない程度に微調整を繰り返す。
- 3) 風下スピンシートを左プライマリーウィンチに2周かけてスピントリマーがトリム開始。  
メインセイルブームの風下への返りに頭上充分注意！  
メイントリマーは引き込んだ分だけメインを出し始め再びトリム開始。  
順風・強風のジャイブではスピンのクリューをできるだけ前方遠くに飛ばし、ジャイブ中のクリューの軌跡がフォアステーを中心に遠く円を描くようなイメージ。  
微風時はクリューが前に飛ばないのでバウマンがクリューを持ちガイドしてあげて、フォアステーをかわすのを補助してやり風下スピンシートをもう一人のバウマンに手渡す。落ち着いて丁寧に！

### 【下マークの数艇身前で、ジブセイル展開&ジェネカー-DOWN。 ジブセイルで下マーク回る】

#### ジブセイル展開（下マークアंकロなので最後はポートタック）

下マークの4艇身前あたりで、ジブをポート（右側）に展開してはらませた後、右側に出ているジェネカーの収納準備をする。

#### 1. 準備

下マークをねらう最後のジャイブはジェネカーを右に出してポートタックで進入出来るようトリムする。ファラーのもつれ。ジブシート両側のもつれ、バウ側の引っかかり、シート踏んでないかチェック。ジブトリマーはもしジブシートをクリートしている場合、プライマリウィンチに巻き直しておく。バウマンはバウに出て、すぐに収納作業が出来るようロッカーの扉を開ける。下マークまでかなりの余裕を見てジェネカーの内側にジブ展開の準備。バウマンは、ジブが開いてもジェネカーに干渉しない事を確かめたら、「準備OK」とヘルムにこえがける

#### 2. 展開

ヘルムの「ジブ展開！」の号令と同時に、左グラインダーはジブファラー-CUT。  
右ジブトリマーはジブシートをキックに注意しながら引く！左ジブトリマーは送り出しをサポート。  
これでジェネカーとジブ、そしてメインの3枚張りとなり下マークに次第に近づく。  
右ジブトリマーは風下側は三重巻きにして次のタックに備えシート整理。  
グラインダーはスムーズ確実にスピハリが降りるように事前にハリヤードをフレークしておく。

#### ジェネカー-DOWN

ヘルムは下マーク3艇身前でソックスダウンのかけ声を発し、スピントリマーは、スピンシート緩めた後、バウマンが船首前側からブルーシートを引いてジェネカーを確実にソックス内に収納する。

そのままソーター部分全体をを抱きかかえ込んで、ソックス本体ごとジブセイルの内側へ大きく移動させる。  
グラインダーはそれと同時にスピハリカットで、ジェネカー本体を下ろし、バウマンは真下に開いたロッカーの口にすばやくソックスソーターごとジェネカー全体を押し込んで行く。

ジェネカーが降りきったらスピハリのスナッチをはずし、バルピット最先端に固定した後、「スピハリ引け」とコクピットに声かけ、グラインダーはスピハリを確実に引いて固定させる。

残るジェネカーのスナッチ2箇所もはずし、ロッカーのストッパーに3すみを固定、フォアガイとスピンシートはライフライン等に仮止めて、絶対落水させないようにして、出来るだけ早くコクピットに戻る。

（下マーク回航後もしばらくタックはポートのまま上っていきただけなので、作業時間は稼げるはずである。）

時間の無い場合はスピンシートだけはずして固定し、ジェネカーが入りきったら、後はそのままにし、ロッカーのふたをしめて、バウマンはコクピットに戻る。

一艇身前ではジブ・メインだけで走っている状態を作って下マーク回頭後、コクピットクルーはのぼりのシート引き込みやタックの準備を整えておく。下マークに近づくにつれて、ジブ・メインセイルを引き込み、下マーク回頭後、第3レグにはいる。

(ポイント)

ジブセイル展開してからスピンを格納する為、ジブセイルのトリムは風を背後から受けれるよう開く。  
スピンの代役。 風がジェネカーに行かないようにして格納しやすくする役割もある。  
ファーラーシートやジブシートは足元で丸めずに出来るだけ直線にしておくとうまくいく。

### 【C】第三レグのぼり(下マーク回頭から上マークへ(反時計回り)、上り航行。上マークへ。)

ボートタック時にパウマンは再びジェネカーセッティング準備  
以後繰り返し

- 1.レース終了後はジブをファーリングし、機走して帰港寸前に船を風位に立て、ブームトッピングをつけた後メインセイルを降ろす作業にうつる。
- 2.メインセールダウンの前には、各自がセールタイを(腰に巻くなどして)持っておくと強風時などもスムーズにラッシングができる。
- 3.メインセイルの4本のバテンがブームの真上センターに収まるように、左右均等に積み込み、各自が持ったセールタイを各バテン後ろはしが固定できるよう留めて行く。
- 4.ブームとマストのグースネック部はより長いラッシングベルトで、マストごと包み込んで完了。

後は、帰港時の作業工程と同様



## 帰港時の作業工程

ジブとメイン両セイルを格納したら、接岸側サイドにサイドバンパー用のフェンダー4本をセットし、ロッカーから係留ロープ(前後2本)を取り出して接岸作業準備完了。

接岸場所は、ピジター用大棧橋の東側1本目のボンツーン(P-8)の東側から侵入し、北から3番目、立派なタラップの設置されている棧橋にポート(左)付けする。

接岸後はデッキの洗浄と船内の整頓、ログブック記入、最後にその日の経費を精算する。

清算方法はその日の費用を乗組員で基本的に人数案分するが、艇長会議時にすでに立て替えているレースクルー登録費(¥2000-¥3000)はパーティー費用を兼ねるので、必ず前もって用意しておくこと。

スピードセンサーのスルハル密栓状態・清掃完了・施錠と電源OFF確認は、責任者が行うこと。

- 1) 接岸前に、フェンダーをスタン右ロッカーから取り出し、前方から若い番号順通りにボ(左)スタンション(ライフラインを支えている支柱)へ4本とも全てをセット
- 2) 出船優先で、港内に入るとエンジンはデッドスロー、右側通行を心掛けP-8へ向かう
- 3) 左バウ先頭と左スタン後尾に一人ずつ、各ロッカーから取り出したラバー付き係留ロープを、ライフライン外側からまわしてデッキのクリートに留め、先端を持って接岸がわデッキで待機
- 4) ボンツーン側が近づくと安全を確かめて、係船係は係船ロープをもったまま、あわてず静かに飛び降り、まず即座にリアロープを棧橋の船尾用係船クリートに(1メートル程度)すばやく、仮巻き付けし、端は船が止まるまで必ず持つておく、フロントロープは充分余裕を持たせて(2メートル程度)船を寄せながら落ち着いて仮止めする
- 5) 船体が落ち着いてから、前後のパーマネント係留ロープをかけて、タラップに開口部が沿うよう船体位置を前後に調整し、前部右側係船ロープと左センターの側面パーマネントロープ2本も前後からかけて完全に船を固定する
- 6) ブームの位置を調整後、メインセイルカバーはマスト側から架けていき、最後尾はブームの後端穴にロープを通して引き込み、きれいにカバーが張るようにショックコードで仕上げる
- 7) ラットカバーは、丸いらットとペDESTAL全体を包み込むように、セットするが、かける前に、必ずペDESTALに置いてある、無線機・携帯・飲料等を取り除いてからファスナーをする
- 8) スタン右ロッカーを開いて、プラクリートの黒いロープを緩め、スイミングハッチをゆっくり開いて、中のキャップを開き、ボンツーンに放置していた黄色い陸電ケーブルを正確に差し込む  
このときのケーブルコンセント先端の黒いマークを、ソケットの左サイド黒ライン目印に合わせると簡単で、完了後、一度ボンツーンの陸電ポスト側の電源を入れる
- 9) 必要に応じてバウキャビン床のスピードセンサーを慎重に抜き変える(セットが完全でなければ、浸水して船は沈没します!最後までかっちり差し込んでから正面にねじると完了)
- 10) メーターカバー5ヶをセット、エンジンキーを船内へ、マリンVHF無線機はチャートテーブル右の充電用ソーターへ、ウインチハンドル・シート類はコクピット右ロッカーへ、ライフベストはコクピット左ロッカーへ、各種フラッグやライフスリング(救命袋)はスタン左キャビンへ格納
- 11) デッキブラシをスタンコクピット右ロッカーから取り出し、デッキとコクピット内を水で洗浄
- 12) キャビン各室・コクピット整頓後・トイレ確認し、必要に応じて水タンク補給とビルジ排水
- 13) チャートテーブル右の電源パネルスイッチ類はすべてOFF、最下部の100V切り替えスイッチは左ひねり(シヨア側)にして、スタン左キャビン足元の12Vメイン電源をすべてOFF  
この状態でも、陸電100Vが供給されているので電灯は点いていて問題なし
- 14) 生ものが残っていないか、私物の忘れ物がないか、ごみは出したか、責任者がもう一度確認して、コンパニオンウェイのアクリルボードをセットし、確実に2周まわして施錠する
- 15) 最後に船の姿勢をボンツーンから確認して、水道ホースリールを巻き取り、陸電ポスト下部北側のロセッティと表示されたブレーカーを落とし、ごみをごみ置き場に捨てて終了です

## 退船時の注意

ポンツーン入口「IDカード」は艇庫キーとともに非常に貴重品です。使用後はエンジンキーとともに、必ず船内チャートテーブル背面のフックに戻して置いてください

必ずその日の日誌を、乗組員氏名・注意事項とともにログブックに記入してください

生ものはもちろんですが、私物は出来るだけ持ち帰りましょう 来たときよりも美しく・・・

トイレのボウルや蛇口、メインキャビンのテーブル表面や木部はバスマジックリンできれいに拭いて置いてください

たまったゴミ袋は、持ち去るとき、次の人のために食器洗剤の入れてあるロッカーにある、白い新品のロール状ゴミ袋をセットし、ポンツーンも船内も整頓を心がけてください